

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172700334		
法人名	特定非営利活動法人 陽だまり		
事業所名	グループホーム 陽だまり		
所在地	高山市下林町966番地1		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成24年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2172700334-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の方との会話を大切に、寄り添いながら、人生の先輩として尊厳ある介護を目指しています。又、毎日全員で朝の掃除や体操と月毎の歌を歌い、天気の良い日は、外の散策が好きな方と一緒に歩き、生き生きとした生活ができるよう援助しています。食事は全員揃って自分の箸を使って、自分で食べています。旬の食材を全員で下ごしらえする事で昔を思い出し、季節を感じていただき、作る喜びとともに食べる楽しみを得ていただけるように援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設以来11年を迎えている。「おだやかに、ゆっくり、ゆっくり」の理念は、利用者支援の原点であり、現在まで変ることなく、利用者の穏やかで、ぬくもりのある生活を支えている。年々、身体能力の低下は避けられないものの、自分でできることは、楽しく活動できるような取り組みを行っている。塗り絵や折り紙等の作業では、集中して指先を使い、できあがった作品は、保育園にプレゼントしたり、文化祭に出展するなど、やりがいと喜びを感じられる支援をしている。管理者・職員は、利用者の自立した生活が、できるだけ長く続くように、持てる力を引き出し、寄り添いながら、生き生きとした生活を支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症がありながらも家庭に近い環境で利用者同士が安心と尊厳のある生活が送れるよう支援することを目的に「おだやかに、ゆっくり、ゆっくり」という理念にしている。職員は地域密着型サービスに沿ったケアを意識し取り組んでいる。省略	利用者がおだやかに、ゆっくりと、尊厳のある生活が送れるように、平易な文言で明示された理念を、日々職員間で確認している。地域の人々と触れ合いを深めながら、利用者の自分らしい暮らしを支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は管理者自らが下林町内(班)の役をもらい、班の行事に積極的に参加しており、地域の陽だまりへの理解が定着している。その他、保育園との交流も随時行ったり、水曜日午前中にはボランティアの会(ベルマーク整理集計)へも数名が随時参加し社会貢献のお手伝いも引き続きしている	地域の行事には、回覧板から情報を得て、積極的に参加している。町内の役員会には、管理者が出席し、公民館の新築にも応分の役割を果たしている。保育園、ボランティア、近隣の人々とは、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	豊田看護大学学生に老年看護実習の場を提供し認知症ケアの実践経験を学んでもらっている。また、若い女性2名のボランティアを受入れて、認知症のお年寄りの生活を体感してもらっている。また、ベルマークの会では、作業を通しGHで暮らすお年寄りを理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回行う中で、毎回市の担当課へは開催の呼びかけをし、出席してもらっている。平成19年度以降は、自己評価、外部評価での結果等を運営推進会議の議題にあげ、内容の報告等を行っている。	会議は、関係者の出席を得て、隔月に開催している。自己評価や外部評価の取り組みを議題に、討議を重ねている。事故対応や予防についても意見を交換し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	項目4にもあるように、陽だまり運営推進会議の開催時には、必ず案内し、毎回出席してもらっている。担当者が出席できない時でもなるべく担当課内の他の職員が出席する等、配慮を得ている。	運営推進会議に出席した担当者に、運営報告を行っている。法改正や制度の運用について相談したり、事故などは、速やかに報告し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当初から玄関等の施錠は一切しておらず、職員はそれに合った見守りをしている。天気の良い日は随時利用者の希望を聞いて散歩や外出を取入れている。朝のゴミ出しも近くのゴミステーションまで職員に同行してもらったりと、利用者の外に出たい気持ちを支援している。	拘束のないケアを実践している。職員は、拘束の弊害をよく理解し、身体的・精神的な負担がないように支援している。玄関の出入りも、個々の行動習慣を見極め、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互いを意識し合い虐待がおきない雰囲気作りを努めている。また、管理者や計画作成担当者等が職員ミーティング等で随時虐待についてふれる等起こらない対策をとっている。		

岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度を理解できるように社協等が主催する研修会が開かれる時は、参加を呼びかけている。現在は家族がまったく利用者の利用はないが、管理者はいつでも関係機関と情報提供し合いながら手続きを円滑に進められるよう連携を意識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にホームを知ってもらうために必ず見学していただき概要等を説明している。入所を希望される場合は、重要事項説明書等で詳しく説明し、理解を得たうえで契約している。利用料等改定時には事前に家族へ周知し全員の承諾書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者やご家族の参加を依頼し意見や要望等を聞くようにしている。目安箱の設置も知らせている。また、外部評価での家族のアンケート(意見)から要望等の改善に繋がるよう、ミーティングで話し合いサービスに反映させるよう心がけている。	運営推進会議に出席した家族や、介護計画作成の際に、意見・要望を聴いている。利用者からの声は、『声ノート』に記録し、サービスの改善に反映している。外部評価の家族アンケート集計表からも、背景を汲み取り改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も職員と同じ勤務体制をとっており、常にホームで起こっている状況を把握できている。また、常にケア職員と仕事を共にしているので職員からの意見も聞きやすく、反映しやすい環境にしている。	管理者は、毎日のミーティングで、話し合いの場を設けている。理念に沿ったケアの取り組みや、気づきを出し合い、それらを運営に反映している。利用者との接し方では、つい、あせった態度をとる場合がある。	対人援助の基本姿勢を、さらに研鑽し、よりよいサービスの向上に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も職員と同じ勤務体制であり、職員の勤務状況を常に把握している。職員には人材育成のために外部からの資格取得に向けた研修案内等を回覧し職員自ら向上心を持って働けるよう研修の機会を与えている。また、参加の場合は受験料等を負担する場合もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修に職員が参加できるよう開催案内を回覧し機会がもてるよう支援している。また、参加後の研修報告を職員ミーティングで復命したり、研修文書綴りに綴じ、いつでも閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県下には岐阜県グループホーム協議会があり、その傘下に飛騨支部会があり月1回会合がある。また、介護計画作成担当者の会合も2ヶ月毎に開かれ、交流や連携、勉強会や質の向上に向けた取り組みがそれぞれ行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面談で本人の生活暦や心配事等の思いをよく聞き、不安の強い方には暫く通所で利用してもらい、安定してすぐの入所が可能な方には託老の宿泊体験を勧める等、一人ひとりに合ったスムーズな入所方法を検討し、本人が安心して入所できる環境に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談で、家族の苦労や考えをよく聞き、家族の求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか家族に話をしているし、必要な時は話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思いや状況等をよく確認し、ここでのサービスが本人や家族の求めているサービスに合うのか見極めて対応している。当所では対応できないと思われる場合は、他の事業所の紹介や斡旋をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ等できることは極力一緒にやっている中で、支援する側、支援される側という意識をもたず、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を施設サービス計画書等でこまめに報告、相談するようにし、家族が介護をゆだねっきりせず、常に関心をもってもらえるよう働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	昔の知人や親戚、ご近所の方等が気軽に本人に会いに来てもらえるよう対応している。また、家族には、盆や正月、祭り、墓参り等出かける機会を促している。	知人や親戚の訪問があり、ゆっくり過ごしてもらっている。ホームの車で、見慣れた市内をドライブしている。また、家族と共に、馴染みの美容院や外食等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、職員が利用者に話しをしかけたり、活動等を通じて利用者同士の人間関係が円滑になるように働きかけている。また、利用者同士の関係等について情報を共有し、見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設等に移られた方や入院された方へ、職員が会いに行ったりする事がある。職員はサマリ等移った方の支援状況を移動先へ手渡すとともに情報伝達し環境や暮らしの継続性等に配慮してもらえるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測り、それとなく確認するようにしている。また、利用者様の声ノートを作りスタッフ全員で検討している。	日々生活の中での会話や表情から、思いを把握している。利用者の話をゆっくり聴くように心がけ、『声ノート』にまとめ、職員間で共有している。把握した思いは、その人らしい暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使いアセスメントを行い把握に努めている。また、家族にもセンター方式の家族版に記入してもらい生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後に職員がその方と関わる中で、その方の性格や他の利用者と一緒に活動を通じ本人のしたい事、したくない事、出来る事、出来ない事を除々に理解し、その人を総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、利用者本人が自分らしく暮せるよう本人や家族の希望も把握し、また、その方の課題となる事柄等を職員ミーティングの場等で情報収集しながら計画の作成に当たっている。	計画担当者を中心に、職員の意見や気づきを計画に反映させている。本人・家族からも意見・要望を確認している。3ヶ月ごとに必要な関係者と話し合い、定時に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの個別の介護経過記録により、日々の暮らしの様子や本人の言葉等を記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしている。また、日々の記録に基づき介護計画の見直しや評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援を職員が柔軟に行っている。また、家族の訪問も随時受け入れている。		

岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の民生委員や社会教育委員等に出席してもらい、その方々の力を借りた取組みが出来るよう普段からの連携を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も、利用者本人の従来からのかかりつけ医に引き続き受診してもらっている。希望により陽だまりの提携医療機関に変更することも可能としている。	利用者個々に、これまでのかかりつけ医を継続している。定期受診には、家族が付き添っている。毎月歯科医の往診がある。複数の協力医療機関と連携し、緊急時の対応に万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、介護職員が常に介護経過記録に記し、記録をもとに看護師等と連絡をとり合って適切な看護に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人への支援方法に関する情報を、医療機関に提供するとともに随時職員も見舞うようにしている。また、家族とも回復状況等の情報交換をしながら、必要な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族と重度化に対応した意思確認を意思確認書により取り交し、陽だまりが対応しうる最大のケアについて説明を行っている。	重度化により、共同生活ができない場合は、他の機関に移ることを方針としている。入居時に意思確認書を交わしている。できるだけ長くホームで暮らせるように、かかりつけ医と関係者で段階的に話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てず適切な行動がとれるようマニュアルを整備し周知徹底を図り、急な発生に備えている。また、消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を行った事もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練や初期消火の訓練を毎年実施している。また、その際は地域の方にも呼びかけ一緒に参加してもらっている。また、職員ミーティングや研修で勉強し、意識付けを行っている。	年に2回、消防署の指導の下、災害訓練を実施している。近隣住民との協力体制があり、職員数名も近くに住居している。備蓄もあり、定期的な勉強会で意識付けを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、人前であからさまに介護する等、利用者のプライバシーを損ねるような行為をしないように心がけている。スタッフ間で意識し合い、ミーティング等の機会を利用して、振り返りの機会を設けている。	恥ずかしい思いをさせない言葉かけに心がけている。話は、よく聴くようにし、否定的な言動がないように、徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様ノートを活用しながら、日中の活動でもやりたい事を聞き参加してもらおう等、自分で決めたり納得しながら暮せるよう支援している。午前中の飲物の時間では、飲みたい物を一人ひとり聞く等希望を聞いて用意している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の基本的な一日の流れはあるが、1人ひとりの体調等に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して日々の生活を支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え等身だしなみは、基本的に本人の意志で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。散髪等も本人の様子や言葉を聞いて、家族に相談したり、美容院と連携をとっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の得意な方や、その方々の身体的認知的能力により、調理の工程の一部や盛付け等を携わってもらっている。食事は職員も一緒に食べ、美味しさや出た素材について話したり、食べる前は調理担当職員からメニューや料理の特徴等聞く等楽しみながら食事をしている。また、配膳前後のテーブル拭きに携わってもらっている。	利用者には、調理の一部を手伝ってもらったり、準備や片付けも進んで役割を担ってもらっている。その日の献立の品書きは利用者の役割としている。職員と一緒に食べながら、好きな食べ物や、食材を話題にし、楽しい雰囲気づくりをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日毎食毎記録し、利用者の摂取状況を把握している。食べる量についても個々の適量を把握し配膳に気をつけている。又、夜間には自室へお茶をペットボトル等で持って行き、いつでも水分補給出来るようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、食後は歯磨きやうがい等各自してもらおうように声かけをするとともに、洗面所での見守りや介助をしている。夕食後は、特に口腔内の清潔保持に努めている。			

岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間やその人の習慣を把握してトイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。また、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツやパット類も本人に合わせた使用を随時検討している。	個々に合わせた、さりげないトイレ誘導をしている。できるだけ布パンツを着用し、トイレでの排泄ができようとしている。おむつ用品は、本人の状態に合わせて使い方を工夫し、使用量の軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から、野菜等の食物繊維が取れる食事作り心がけ、便秘予防体操等を行ったり、散歩等で身体を動かし自然な排便を促している。また、体質等で便秘がちな方には、医師の指示のもと処方された下剤や整腸剤を使用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日の内、午前、午後の時間に分け、一人ひとりがゆったりと入っていただけるよう入浴時間を長くとっている。また、その人にとって一番よい時間に入ってもらっている。	本人の希望に応じて柔軟な入浴を支援している。拒否のある人は、負担感がないように、タイミングを見て促している。本人の満足感が得られるように、適温でゆったりと、楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。また、1人ひとりの体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬管理を徹底するため、各々の薬入れ(カゴ)を用意し、薬の袋には日付や名前、朝・昼・夕等と記し整理して全職員が把握できるようにしている。服薬時は職員が薬を手渡し服用を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや食事のメニュー書き等得意な分野で力を発揮してもらえるように仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。その他貼り絵等作品作りをして、2年毎に開催される校下の文化祭へ出展している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社協イベントになるべく参加している。近くの公園やお店等へ出かけたり、普段自分達で作った卓上ゴミ箱を地域の保育園へ届けたり、ベルマークのボランティアの会に参加したりする利用者に職員は同行し、出かける支援をしている。車両が大小含め4台あることで、以前より外出しやすくなっている。	ホーム周辺や、近くの公園を、日々散歩している。買い物や保育園に出かけたり、ドライブを兼ねて、花見など名勝地へ出かけている。外出の希望に何時でも応じることができるように、法人の車を常備している。	

岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には、手元にお金を持っていないと不安な方もみえ、その方には家族と相談して小額の現金を持ってもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時は、相手先と話ができるよう職員は支援しているが、頻回に家族に電話を望まれるような問題となるような電話は、他の事で意識をそらしたり管理者が電話管理し、利用者と家族の間でトラブルが起きないように管理する場合もある。利用者の事を全面的に受入れる家族の方は、自室に携帯電話を置いてみえる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆がいる居間のすぐ隣に台所があり、ご飯の炊ける匂いや料理の作る音がすぐ伝わる位置である。また、トイレも居間に近く水洗トイレなので清潔に使ってもらえる様式である。築5年の建物なので新しい環境で生活してもらっている。	共用の場には、手づくり作品や、みんなで歌う歌詞が目線にある。また、利用者が慣れ親しんだ伝統ある祭りの山車の絵画も飾っている。掘り炬燵や、新製品の「脱臭器」を備え、清潔感のある心地よい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物が小規模なので玄関ホールや階段のおどり場に椅子やソファを置く等の空間作りは出来にくいですが、各々の居室が比較的居間に近く、1人になりたい時は、自室へ行きやすい環境である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持ち込んでもらうよう説明し、そうしている利用者が多い。自分で作った作品や散歩で摘んだ花を自室に飾る等その方の居心地のいい様にしてもらっている。また、毎朝自室を掃除することで自分の部屋だと認識できている。	馴染みの小物類を持ち込んでいる。自作の習字や家族の写真、野の花等をかざり、自分の部屋として安らげる空間としている。居室の掃除は、朝に自分で行うことを、日課にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は小規模ではあるが、バリアフリーに対応し、いたる所に手すりが取り付けられ、自立と安全を確保した環境にしている。		